

第1回白山市教育委員会会議録

1 日 時 令和6年2月21日（水）午後3時

2 場 所 白山市役所本庁舎4階 402会議室

3 出席者

| | |
|----------|--------|
| 教育長 | 清水 茂 |
| 教育長職務代理者 | 竹内 千恵子 |
| 教育委員 | 小寺 正彦 |
| 教育委員 | 尾張 勝也 |
| 教育委員 | 安川 薫 |
| 教育委員 | 佐賀 一夫 |

4 事務局

| | |
|-----------|--------|
| 教育部長 | 山内 満弘 |
| 教育総務課長 | 米木 伸一 |
| 学校教育課長 | 藤 法生 |
| 学校指導課長 | 東海林 幸男 |
| 生涯学習課長 | 中村 繁樹 |
| 子ども総合相談室長 | 浅香 弥生 |
| 松任図書館長 | 三谷 哲史 |
| 文化課長 | 小中 和也 |

書記職

| | |
|-----------|-------|
| 教育総務課課長補佐 | 長島 史晃 |
| 教育総務課係長 | 山崎 有香 |

5 傍聴人 なし

6 案件

議案第1号 令和5年度白山市一般会計補正予算（教育費）について

議案第2号 令和6年度白山市一般会計予算（教育費）について

議案第3号 白山市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の一部を改正する
条例について

議案第4号 白山市文化会館条例の一部を改正する条例について

議案第5号 白山市防災コミュニティセンター条例の一部を改正する条例について

7 議事の経過等 以下のとおり

清水教育長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として佐賀委員を指名した。

諸般の報告について、教育部長より教育長が出席した行事の主な概要について報告した。

■主な行事の概要（12月28日の教育委員会以降の報告）

- ・ 1月1日（月・祝） 第1回災害対策本部会議（402会議室）
第2回災害対策本部会議（402会議室）
- ・ 1月2日（火） 第3回災害対策本部会議（402会議室）
第4回災害対策本部会議（402会議室）
- ・ 1月4日（木） 第5回災害対策本部会議（議会第3会議室）
- ・ 1月5日（金） 第6回災害対策本部会議（議会第3会議室）
校長会議（オンライン）
- ・ 1月7日（日） 白山市二十歳のつどい（市内7会場）
- ・ 1月9日（火） 第7回災害対策本部会議（議会第3会議室）
- ・ 1月10日（水） 第1回被災者支援対策会議（庁議室）
- ・ 1月11日（木） 第8回災害対策本部会議（議会第3会議室）
- ・ 1月12日（金） 第2回被災者支援対策会議（市長室）
- ・ 1月13日（土） コミュニティセンター関係者説明会（鶴来文化会館クレイン）
- ・ 1月15日（月） 第3回被災者支援対策会議（市長室）
- ・ 1月16日（火） 第4回被災者支援対策会議（市長室）
- ・ 1月18日（木） 第5回被災者支援対策会議（市長室）
- ・ 1月19日（金） 第6回被災者支援対策会議（市長室）
- ・ 1月22日（月） 寄附感謝状贈呈式（特別応接室）
第61回全国中学校スキー大会、第47回北陸アンサンブル
コンテスト、第36回中部日本個人・重奏コンテスト本大会
出場者激励会（市民交流センター）
- ・ 1月23日（火） 第7回被災者支援対策会議（市長室）
- ・ 1月24日（水） 社会教育委員会議（402会議室）
- ・ 1月30日（火） 藤枝市からの被災者支援物資等受入れ式（白山青年の家）
- ・ 1月31日（水） 教育委員会協議会（402会議室）
令和5年度第2回総合教育会議（402会議室）
- ・ 2月7日（水） 寄附感謝状贈呈式（特別応接室）
第9回被災者支援対策会議（市長室）
- ・ 2月8日（木） 白山市・野々市市保健衛生、学校保健に係る懇談会
（グランドホテル白山）
- ・ 2月9日（金） 令和5年度市町村教育委員会研究協議会
（TKP新橋カンファレンスセンター）
- ・ 2月14日（水） 第10回被災者支援対策会議（市長室）
- ・ 2月15日（木） 学校衛生委員会（403会議室）
- ・ 2月18日（日） 白山市連合壮年会令和5年度「市政懇談会」
（松任文化会館ピーノ）
- ・ 2月20日（火） 感性のびのび俳句大会表彰式（402会議室）

本日の議題に入り、議案第1号、議案第2号、議案第3号、議案第4号、議案第5号について、質疑・応答が行われ、原案どおり承認し閉会した。

【案件の説明および諸報告について】

案件について、事務局より説明・報告し、原案通り承認された。

【主な質疑・応答の内容について】

○令和6年度白山市一般会計予算（教育費）について

(小寺委員)

小学校の白山ジオ教育推進事業で、白山ジオ学習発表会事業は、いつ行うのかと、どのような規模で行うのか。また予算的には30万円と大変少ないのですが、30万円ぐらいで、どのようなことができるのか教えていただきたい。もう一つは同じく中学校の白山ジオ教育推進事業ですが、これも事業費は前年度と同様の45万円の事業費で行うことになっているのですけれども、45万円ぐらいで去年、大したことができたような気がしないのですけれども、これについても教えていただきたい。

(東海林学校指導課長)

小学生の方ですけれども、2学期の秋に計画をしております。1学期から学んできたことを、秋口に中間発表として報告し、3学期にはまとめとっております。規模としては、19校が1度に集まるのはなかなか難しそうなので、2部制を考えています。午前・午後になるのか、2日間に分けるのか、全体を10校と9校ぐらいの規模に分けて、それぞれの集まりやすい会場で、2部で発表会をします。今のところ3年生4年生なので、体験の方がそれほどないと思っていて、座学の方が多くなるかと思いますが、学んできたことを各学校で、去年の全国大会のような立派なものになるかは、3・4年生であつたら難しいかもしれないのですけれども、発表会を考えております。中学校については、学校が少しずつジオの方に総合的な学習の時間等を使って、いよいよ体験が増えてきている状況です。まだ教育課程上の位置付けも中学校はしていませんので、来年こちらの方でお示しして、それらが少し格好になっていけば良いと思っております。事業についてはそれぞれ継続の形で、大きく何か発展するという事はまだ中学校ではないと思っております。

(小寺委員)

先日も新聞報道でジオ教育に大々的にシフトしていくと思ったのですがけれども、小学校19校で1校当たり1万何千円だと用紙代や講師の謝礼にもならないし、不思議に思ったのですが、もう少し教えていただきたい。

(東海林学校指導課長)

1年生から順に学びを高めていくと言いますか、その途中の段階の3、4年生になります。当然3、4年生の学びを生かして体験を増やすとか、いろいろな外部からゲストティーチャーをお呼びして、次の5、6年生に発展していき、最終的に小学校であればその6年間を計画的に段階的に進めれば良いと考えています。3、4年生で去年の全国発表のような状態にしてしまうと、5、6年生でやるものがなくなってしまいます。尾張委員からも言われてるような、地元はもちろん、他の地域、他の世界のジオに目を向けることも大切と思っておりますけれども、6年間の途中であるということをご理解ください。

(竹内教育長職務代理者)

関連して、対象学年は「小学4年生、または3年生」になっているのですが、これは3年生か4年生ということですか。

(東海林学校指導課長)

基本的には4年生なのですが、学校によって小規模なところがあり、4年生だけは数名という学校があるので、その場合は3年生も混ぜても良いという考えで、4年生と3年生としています。ほとんどの学校は4年生が来るのではないかと考えているのですが、小規模校を考えての配慮ということです。

(竹内教育長職務代理者)

希望的には3年生にも見せてあげて、来年は自分たちがこの舞台に立つというような勉強になってほしい。1回だけでは4年生が終わったら5年生になって、なかなか繋がりがないのでそこが気になるところです。もう一つは、やはりジオ学習なので、せっかく小学校・中学校でやるのであれば、小・中の連携というか、それが繋がって9年間でこんな勉強したという体系的なものを作って欲しい。小学校は小学校で終わり、中学校は中学校で終わりというのではなくて、体系的になれば良いという希望です。

(東海林学校指導課長)

言われた通り、9年間を見越して、計画的に進めなくてはいけないと思っています。先ほど言っていました白山手取川ジオパークに限らず、いろいろな地域のこととか世界のいろいろなことを学んでいければ良いと思っております。またよろしく願いいたします。

(尾張委員)

特に中学校のジオ体験なのですが、去年、鳥越中学校から要請を受けて、実際にやらせていただいたのですが、やはり小学校と違って中学校になると中身、難易度のレベルが上がってくるとどうしても危険性も上がってくる。適当に安全に何かやりましょう、ではなくて中学生は中学生で一生懸命できるようなものを提示してあげたいとなると、結局スタ

ップです。安全性もきちんと確保できる、専門的知識、経験もあるスタッフを呼ぶとなると、どうしても謝金がかかってきます。そういう人を1日お願いするだけでも、それなりのお金もかかるし、実際、PTAとか育友会の予算も入れて、一生懸命工面されていたので、学校の自助努力も大事だと思うけれど、やはりお金がないとなかなか良いものがない。お金のことは言いたくありませんが、やりたいと思った時にはお金がないからできないとなってしまう。無理にとってもお金かかる贅沢なことするという意味ではなくて、きちんとしたものをきちんとするためには、お金が必要だと皆さんは当然分かっていると思うのだけれど、今一度、特にジオ体験となると何回も言いましたけれど、安全と中身の質の保障をやはり非常に考えて大事にしていかなければいけないと自分は感じています。

(東海林学校指導課長)

白山ジオ遠足、白山ジオ合宿、それ以外のいろいろな活動があるのですけれども、今言われたように説明員、インストラクター等のスタッフの育成というのは今後の大きな課題でもあります。それに伴う謝金も今後、予算化を進めていかななくてはいけないと思っていますので、よろしくお願いします。

(教育長)

ジオの学習、ジオパークの取り組み推進は、市長が示した、子育て教育環境の充実・ジオパークの取り組みの推進・防災力の向上、この三つの重点事業の一つに入っております。私も市長とよく話していますが、今回はこういう予算配分ですけれども、伸びしろがまだまだ期待されるということです。先ほど学校指導課長が少し触れましたけれど、発表会で終わらせるのではなくて、自分たちのふるさと白山市をやはり誇りに思うとか、愛着に思うのももちろんなのですけれども、もっと他の地域と見比べてみるというところで、先程の他の県、外国との比較も必要だということで、毎年開催されているジオパークの全国大会に小学生・中学生を送り出せるような予算も今後期待できるところです。これも教育普及にとってはとても大事な取り組みとっております。まずは初年度ということで、見ていただければありがたいと思っています。今月の終わりに校長会があり、学校指導課が作っているジオ学習のカリキュラムの参考例も示していますので、9年間の育成という小中の連携ももちろん大事にして、糸魚川市のように9年間で積み上がっていくようにしていきたいとっております。それと後で出てきますけれど、社会教育、生涯学習の部分で中学生の「ジオ・クラブ」等々、社会教育の部分でのジオ学習の裾野を広げていきたいとっておりますので、よろしくお願いいたします。

(竹内教育長職務代理者)

「その他事務費」というのが多くの項目の最後にあります。例えば小学校管理費の最後に1億5,932万4千円。いろいろ見ていると、この事務費がどんなものなのかというのが不思議に思いました。もう1点は学校医等報酬で、先ほど野々市市と折半というようなお話

でしたけれど、これは学校三師で内科医・歯科医・薬剤師への謝金になるわけですが、野々市市と学校数が違うのですけれど、折半とする考え方が分からなかったので質問させていただきます。

(藤学校教育課長)

「その他事務費」ですが、学校校務員さんのシルバーへの委託費、学童農園の土地の借上料、ほかにサッカーゴールといった備品購入費もあります。あとはエレベーター、防火施設に対する点検業務があります。

(竹内教育長職務代理者)

それは「管理費」とまた別ということですか。

(藤学校教育課長)

「管理費」につきましては学校への配当分の管理費になっていまして、学校での消耗品、印刷製本費等になっています。次の学校医等報酬になりますけれども、今ほどありました学校三師の内科医・歯科医・薬剤師ということで、白山市・野々市市の児童生徒数の上限ではなくて、あくまでもお医者さんにかかる謝礼金が野々市市と白山市で差異があるということで、白山ののいち医師会の方から提言がありまして、今回、野々市市と合わせる単価になったということです。

(安川委員)

教育指導費の教育指導事業の図書館システム統合事業について、9月から統合ということなのですけれど、これは統合するに当たって何か良いことが見込まれるということがあってのことだと思うのですけれど、具体的にご説明をお願いしたいです。教職員働き方改革事業のデジタル採点ソフト利用料については、今年度、何校かで試行されて、来年度から本格的に導入ということだと思うのですけれど、実際に利用されてみた学校さんからの、ご意見というか良かった点とかあると思うのですけれど、具体的にお願ひいたします。

(藤学校教育課長)

学校の方のシステムと、公立の図書館とのシステムが一緒になりまして、貸し出し状況といった本の状態がリアルタイムに学校でも公共の施設でも分かるようになります。そういったことで貸し出しも学校でもしやすくなります。これはソフト面ですし、ハード的にも学校の方で同じパソコンを使いまして、バーコードリーダーも各学校にそれぞれ2台ずつ設置しまして、貸し出しもスムーズになるような形で考えております。もう一つ、デジタル採点ソフトの方ですけれども、実証試験ということで今年度の年度当初から松任中学校、北星中学校で使っていただきました。また、年度途中からは光野中学校も使わせていただいて、学校の先生方からは、今までかかっていた日数よりは、半分で済んでいるというようなお話で聞

いています。実際システムを今回無償で提供いただいた業者さんの方に確認しても、システム的には概ね半分ぐらいで済むであろうと聞いていたものが、実際、現場からの声としてもそうなっていましたので、今回、来年度予算に盛り込ませていただいて、全部の中学校ではないのですけれども、白山ろくを除く7校について採点ソフトを使っていただこうと思っています。

(佐賀委員)

青少年教育費の青少年団体育成事業の中で、青年団、子ども会といった数々の団体、安全会費負担金等ありますけれども、この中で子ども会連合会補助金というのがとても突出して金額が大きいです。私も子どもが入っているので子ども会に所属しているのですけれども、何の事業に当てはめられているのかは、支出した先から報告等受けているのでしょうか。どういった事業内容があるかということです。

(中村生涯学習課長)

白山市子ども会連合会にまとめて渡しまして、こちらから各地域の子ども会に配付しております。全体一括して補助金交付申請がありまして、決算に応じて支出しております。事業についても事業報告は受けておりますが、今手元に詳細資料がございません。

(佐賀委員)

各地区の子ども会連合会といった団体に所属子ども会数で割り当てて、一旦配当してその団体での活動費に充てているということですね。活動の中には、今いろいろな団体への補助金や、先ほどのジオパーク推進の体験活動とか、後は教育指導費の中でP T A連合会の方にも補助金を支出しているように、もしかしたらその対象は同じ子どもたちに向けた事業なのに、バラバラな組織で運営しているということがあるのではないのでしょうか。例えば白山登山をP T Aで行ったこともあるのですけれども、子ども会連合会も行っているということがありました。白山市P T A連合会では親子登山という形で取り組んだこともあり、松任山岳会、保健師の方も、一緒に来ていただきました。主に初心者の方がとても多いということで、親子でも登山を始めて欲しい、そんな突破口にしていこうと未経験者でも山岳会といった経験者が同伴して、体調不良になっても対応できるよう実施しました。子ども会連合会の方でも同じように実施しているのであれば、タッグを組んで、実施したらどうでしょうか。共有する機会があるのか分からないのですけれども、同じ目的があるのであれば講師の先生を呼んで講演会を開くにしても、バラバラに開催するのではなくて一緒にやってみたらどうかと思いました。お互いに予算が足りないと思う時がおそらくあると思うので、これを合致して一緒にやることで、十分良い活動ができるのではないかと思います。補助金として支出しているだけで使い方は先方にお任せという形になるかもしれませんが、事業報告等の中で、内容が重複していることがあれば、少しマッチングさせてあげて、学校教育等も含めて社会教育とうまく合わせてできたら良いかと思います。

(中村生涯学習課長)

貴重なご意見として捉えまして、それぞれ横の繋がりを持って使いやすいように統合されるものがあるのか、決して使い勝手を悪くするような予算ではないので、地域の方が白山登山について団体同士で合わせて実施するのも一つの案として良いことなので、今後そういったことも指導していきたいと考えております。ありがとうございます。

(尾張委員)

青少年教育費のジオパーク体験活動推進事業の、中学生以上対象「ジオ・クラブ」について、新聞に結構メインで掲載されていて、そんなすごいことをするのかと思って予算を見たらなかなか小さい。先ほど年5回とか定員15名とか説明いただいたけれど、もちろん変わることもあるかもしれないけれども、今の時点でもう少しいろいろな補足とか詳しいことが分かったら教えていただきたい。

(中村生涯学習課長)

15名定員で5回を考えています。中学生なので、より詳しくジオについて研究というか、体験して学んで欲しいということで「石」をテーマに考えております。手取川でも上流から中流、下流と石が全然違いますので、例えば7月は白峰、9月は美川で海岸の石、11月に鶴来、鳥越の河原の石ということで、まとめを松任の方で行いたいと考えております。内容については、予算的には講師の謝礼金、保険料・消耗品関係ということを考えております。バスについては社会教育バスなどを使いますので、経費はここに計上されている予算とは違うところで委託料として支払います。この講師の先生については、ジオパーク・エコパーク推進課と連携をしまして、金沢大学の石の博士を講師としてお招きし、研究していく予定です。

(尾張委員)

あえて年5回で通年ですね。だから同じメンバーが5回で、全部日帰りということですね。「ジオ・クラブ」自体は僕も前から同じようなこと言っていたと思うのですが、取り組みとしてはとても良いと思います。気になるのが、この中学生以上というのはどこまでなのでしょう、大人も含まれますか。

(中村生涯学習課長)

確かに中学生以上なのでですけど、中学生で考えております。

(尾張委員)

やはり中学生以上で、例えば高校生までにしたとしても、中学校1年と高校3年だったら、とても差があるので、活動する時にする側がとても難しい。対象学年はある程度絞った方が、

発達段階に応じた、どこまで何を学習しているかということも含めて活動できると思うので、いろいろな学校の学習とリンクさせていくことを思うと、割と絞った方が良いのではないかと思います。それと新聞に大きく掲載されてしまったのでなおさらですが、「ジオ・クラブ」は名前的にはジオとして鳴り物入りの出てきそうな雰囲気があつて、何を心配してるかという、いざ募集した時に定員割れになることです。こちらから提示したいというものは子どもたちにとって魅力あるもので広報活動もとても大事だと思っています。僕は白山ろく少年自然の家で「かもしかクラブ」というのを毎年やっていて、小学校4～6年生が対象で、県のパンフレットに乗るからとても人気があり、定員を超える応募が当たり前で、入れたらラッキーみたいな感じです。もちろん人気があるとこちらとしてもいい加減なことはい、という良い意味での刺激にもなります。あまりプレッシャーをかけるつもりはないのだけれど、「行ってみたい、やってみたい」という中身と広報活動といった魅力発信についてやっていただきたい。思ったより人気がなかったとなると、せつかくの良い素材がもったいないと思います。いろいろ大変だとは思うのですけれど、中身の良いもので、みんなが「ジオ・クラブっておもしろい、なかなか入れなくて抽選みたいだよ」と言うようになったらいいなという希望というか、意見です。

(安川委員)

学校での児童の図書の借り方について、どのようにしているのか分からないのですが、統合されるということであれば、市立図書館の利用カードで学校でも借りることができるようになるということですか。

(三谷松任図書館長)

今のところはそこまではできないかと思っています。今後できれば良いかと思っていますが、基本的には学校のカードではなくて、図書館の利用カードが必要です。ただ、学校図書館は学校図書館の中でだけで、外部とのやり取りが学校図書館ではできないので、システムが一緒ということになっても、今のところはまだ難しいかと思っています。公立図書館と学校図書館は全く別のものになりますので、今から統合していく上で、いろいろなメリット・デメリット、できる・できないについて検討し、統合できるものはしていければと思います。

(教育長)

今後の課題ということですね。利用者の利便性がやはり一番大事なので、より高まるような、今回のシステム統合でまた上を目指していければ良いと思います。統合は懸案事項でした。長年の懸案事項も一つクリアできたので、ただでさえ貸し出しの多い白山市なのですが、司書が全校配置されていて、統合によって、より連携を頑張って読書活動充実に向けていければ良いと思います。